

2018年10月実績概要（メモ）

（2018. 11. 22）

クラッカーの定修がほぼ終わりを迎える中、定修が残る誘導品では減産が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 552, 600トン

前月比 +16.1% (+76, 600トン)

前年同月比 +1.2% (+6, 600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	+ 12.5 %	+ 4.0 %
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 0.3 %	▲ 2.8 %
生産増減率	+ 16.1 %	+ 1.2 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94.9%→ 当月95.2% ← 前年同月97.8%

定修プラント：前月2社2プラント→ 当月1社1プラント ← 前年同月なし

本年1～10月の累計生産量 5,034.0千トン、前年同期比▲6.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に日数増と定修規模の差からLD、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、ベンゼンなどの11品目がプラス。HD、PS、SBR、キシレンなどの6品目は定修規模差等からマイナスとなった。前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PP、PS、SM、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの14品目がマイナス。塩ビ樹脂、塩ビモノマーなどの3品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、LDは日数の増加と定修系列数の減少、PPは日数増と稼働率要因からそれぞれでプラスとなった。HD、PSは主に定修規模の差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因からLD、HD、PP、PSともマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、祝日が多かった前月に対して、当月はユーザー側の稼働日数の増加により4樹脂揃って出荷量が増加しプラスとなった。

前年比では、ポリオレフィンを引き続きフィルム分野において前年比マイナスが続いている。この一方で、当月はLDではラミネート分野等、HDでは射出成形分野、中空成形分野等の出荷が増加し前年並み乃至はプラスとなった。また、PPは射出成形分野の出荷が大幅に増加しプラスとなった。PSは供給量の減少もあり包装用、電機工業分野の出荷が減少しマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出は低位な状況にあることに変わりなく、LD、HDでは近年の当該月の輸出量としては最低水準が続いている。前月比ではLD、PPがマイナス、HD、PSはプラスとなった。

前年比ではHD、PPがマイナス、LD、PSはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSで減少し、在庫率(季節調整済)も前月に対してLD、HD、PP、PSで低下した。在庫水準としては、LD、HD、PSはほぼ適正レベル、PPはややタイトな傾向が表れている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LD	▲18,300	3.4	3.1
HD	▲3,100	3.7	3.2
PP	▲22,000	3.0	2.4
PS	▲16,300	1.8	1.3

以上